

平成24年度文化庁文化芸術振興費補助事業

香川県指定無形文化財 小豆島町 中山農村歌舞伎保存会

平成24年 11月3日(土祝) 15時～16時30分

4日(日) 11時～12時30分

演目(各公演とも)

- ・三番叟(さんばそう)
- ・「仮名手本忠臣蔵」三段目 松の間刃傷の場
- ・デコ芝居「恋飛脚大和往来」新口村(にのくちむら)

小豆島の農村歌舞伎

会場 日本民家集落博物館
小豆島の農村歌舞伎舞台
(大阪府指定有形民俗文化財)
野外での公演となります(雨天決行)

観覧料 無料(自由席)
別途博物館への入館料が必要
(大人500円、高校生300円、小中学生200円)

【同時開催】
・香川県小豆島の物産販売(協力:香川県大阪事務所)
・記念講座
11月3日(土祝) 13:30～14:30
「小豆島の農村歌舞伎について」
講師:芥上紗木(四国家博物館 学芸員)
11月10日(土) 13:30～15:00
「小豆島の魅力について」
講師:藤田則久(香川県大阪事務所 副主幹)
・企画展「香川県の民家と農村歌舞伎」
11月3日(土祝)～12月24日(月祝)

公益財団法人 大阪府文化財センター
むかしのおうちのはくぶつかん
日本民家集落博物館
〒561-0873 大阪府豊中市服部緑地1番2号
TEL 06-6862-3137/FAX 06-6862-3147
URL <http://www.occh.or.jp/minka/>

主催:公益財団法人大阪府文化財センター 日本民家集落博物館

11月3日(土祝)・4日(日) 小豆島の農村歌舞伎公演

日本民家集落博物館には、各地の民家が移築されており、毎年、民家の郷土に伝わる民俗芸能の公演と、関連の講座を開催しています。今年も当館の小豆島の農村歌舞伎舞台で、中山歌舞伎保存会による、歌舞伎芝居の公演を行います。

《中山農村歌舞伎について》

小豆島の農村歌舞伎の起源は今から約三百年前といわれ、江戸時代から明治・大正時代にかけて盛んに演じられました。中山地区は小豆島中央部、千枚田が広がる山間地域にあり、代々集落の人たちによって歌舞伎が演じられてきました。寛政元年(一七八九)に奉納された太鼓をはじめとして、江戸時代より使われた衣装や道具が今でも数多く残されています。

中山地区に伝わる農村歌舞伎の一つとして、デコ芝居があります。

デコ芝居とは、デコと呼ばれる張子製の人形の頭についた心棒を、竹で編んだ胴体に通して衣装を着せ、黒衣の役者が人形の着物の袖に手を通して、二人羽織のようにして、身振り手振りを交えて演じる芝居です。こうした形態の芝居は全国でも珍しく、その起源など、不明な部分も多い芝居です。(香川県指定無形文化財)



《当館に移築された舞台について》



小豆島北東に位置する吉田集落で、産土神として崇められていた荒神社の境内に、本殿と向かい合うように建てられていました。昭和三十八年(一九六三)に当館に移築されました。安政六年(一八五九)以前の建築で、寄棟造りの平屋建て。小豆島の舞台としては比較的小型の建物です。屋根は茅葺きで、開口部を大きくとるために舞台の前面だけ瓦を葺いています。芝居を行うときは、舞台正面左手に花道を取り付けます。(大阪府指定有形民俗文化財)

《演目紹介》

●「仮名手本忠臣蔵」三段目 松の間刃傷の場

「仮名手本忠臣蔵」は元禄赤穂事件を題材とし、古今にわたり幅広く上演されています。初演当時幕府のおとがめから逃れるため、吉良上野介を高師直、浅野内匠頭を塩治判官と、別の人物に置き直して上演されました。師直より理不尽な罵倒を受けた若狭之助は師直を討つことを決心、松の間で斬りかかりますが、先に若狭之助の家来から取り成しを受けていた師直は、平身低頭謝り続け、若狭之助は怒りをこらえつつも去っていきます。そこへ塩治判官が登場し、判官の妻の顔世より求愛を断る文が師直に届きます。不意ながらも若狭之助に謝罪して面白くないところに、横恋慕していた顔世から拒絶された師直は、判官にねちねちと当たり散らします。最初は聞き流していた判官でしたが、師直のあまりのしつこさに、一旦は思いとどまるものの、ついに刀を抜き師直の頬に斬り付けてしまいます。

●デコ芝居「恋飛脚大和往来」新口村

近松門左衛門の「冥途の飛脚」を歌舞伎化したものと一緒に演じたいがために罪を犯して追われる男女、離れた息子を想う父の情が観客の心をうち、雪の演出も相まって人気のある演目です。梅川を身請けするために他人の金を使い込んだ忠兵衛は、梅川と二人、生まれ故郷の新口村まで落ちのびますが、追っ手が厳しく、やむなく知人の忠三郎宅で身を潜めていました。そこに実父の孫右衛門が通りがかり、雪の中で鼻緒を切らして転んでしまいます。梅川は思わず飛び出して介抱します。その様子から事情を悟った孫右衛門は、情と義理のはざままで梅川と言葉を交わします。父子の最後の別れをさせた梅川は、孫右衛門に目隠しをします。手を取り交わして親子の名残を惜しんだ後、孫右衛門は二人を逃がして、去っていく姿を見送るのでした。

館内の案内図

- A: 飛騨白川の民家 (岐阜県)
- B: 狹野鶴の民家 (大阪府)
- C: 日向稚葉の民家 (宮崎県)
- D: 信濃秋山の民家 (長野県)
- E: 大和十津川の民家 (奈良県)
- F: 越前高岡の民家 (福井県)
- G: 南部の曲家 (岩手県)
- H: 奄美大島の高倉 (鹿児島県)
- I: 小豆島の農村歌舞伎舞台 (香川県)
- J: 河内布施の長屋門 (大阪府)
- K: 堂島の米蔵 (大阪府)



- M: 釣り舟 (島根県・鹿児島県)
- N: 原田城主 原田右衛門尉の供養塔 (大阪府)
- P: 北河内の茶室 (大阪府)
- Q: 梅林



《開館時間》 9:30~17:00(入館は16:30まで)

《休館日》 月曜日、12/27~1/4

《入館料》

	大人	高校生	小・中学生	幼児
個人	500円	300円	200円	無料
団体(20名以上)	400円	200円	150円	100円
ミュージアムカード	2,000円	1,000円	—	—

(注)ミュージアムカードは発売の日から1年間、繰り返し入館可能なパスカードです。